仙田MAN展

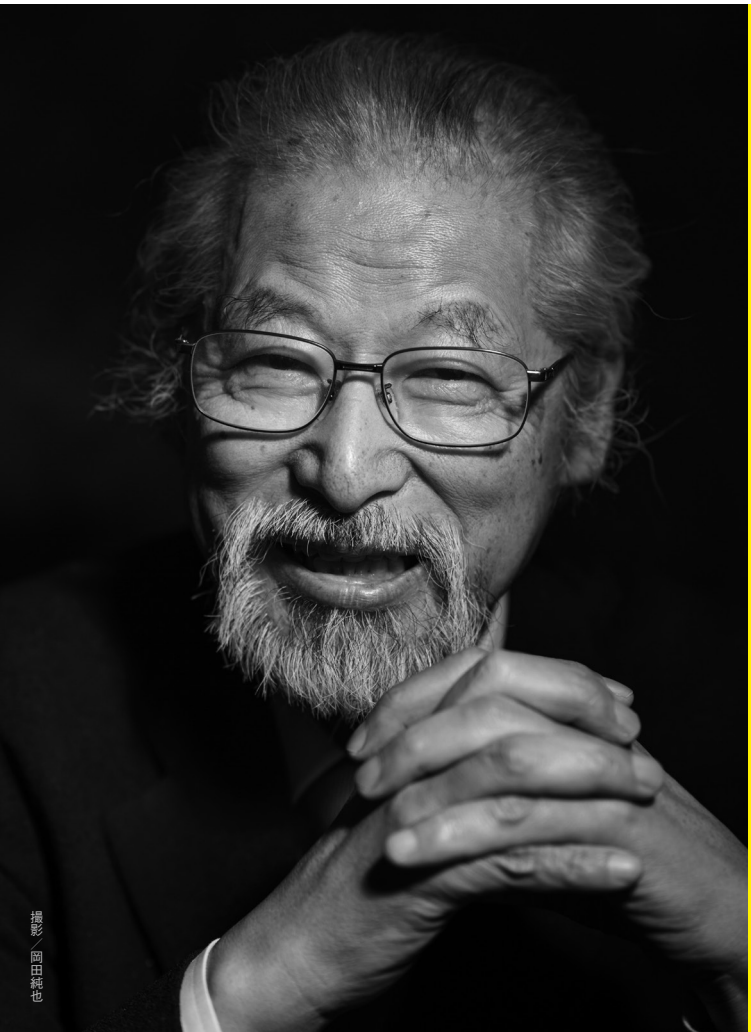
ことばで紡ぐ建築

2026年11月21日土—12月6日日
建築家会館 1階 大ホール

平日＝13時～20時　土日祝＝10時～20時（11月21日のみ17時開場）　入場無料

主催＝特定非営利活動法人 建築文化継承機構（JIA-KIT建築アーカイヴス）
共催＝仙田満展実行委員会／金沢工業大学
後援＝株式会社 環境デザイン研究所／公益社団法人 日本建築家協会
問合せ先＝特定非営利活動法人 建築文化継承機構 事務局
TEL: 03-3356-2575（建築画報社:櫻井ちるど）　メールアドレス: npokbkk@gmail.com

JIA　K. I. T. 金沢工業大学



撮影／岡田純也

建築にとって、また、デザインにとって、ことばは重要である。私のふたりの師匠も、ことばで自らの建築の目標や方法論を語っていた。谷口吉郎氏は自らの建築のデザインの目標を「清らかな意匠」といった。菊竹清訓氏は、自らの建築の方法を「か・かた・かたち」と示した。私もことばで、私の目指すコンセプトを語り、方法論を語ってきた。ことばは建築やデザインにおいて重要である。私は、スケッチも、模型も好きだが、ことばで考える事はもっとも得意である。ことばによってつくり方が変わる。つくり方によって建築が変わる。私の環境建築家という肩書もことばによってつくられている。ことばによって、私は80数年の自分自身を、また、自分がつくってきたものを創造してきた。私は、ことばで建築を紡いできた。「巨大遊具」「都市の木」「遊環構造」「世界を望む家」「環築」「アーステクチャー」「こども達が困難を乗り越える力をもって成長する環境」「安心基地」「D字体」「立ち直る場」「めぐる・めくる・めくるめく図書館」「ピースウイング」「遊環創造都市」。私は、私の建築、環境デザインをことばで語ることによって、建築家として生きる目標を確認してきた。若い方々に、建築家の「ことばを紡ぐ」意味について考える機会になってくれたら幸いである。